

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
航空事業論			13843	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石井 由美子	選択	2	日本航空株式会社元国際線客室乗務員研修講師として人材育成、インバウンド接客、SDGs教育に携わる			

授業の到達目標

グローバル市場の中で航空事業の歴史、ビジネス戦略を学び、航空事業について基本的な説明ができる。
航空事業の歴史やオープンスカイ政策とその後の各航空会社のビジネス戦略を理解し、グローバルライアンス、台頭するLCC（格安航空会社）とFSC（フルサービスキャリア）の戦略の違い、変化する世界の空港やその機能を理解する。また、一便の飛行機の運航の安全性と快適性がいかに多くの人々、セクションによって担保されているのかを総合的に理解する。
感染症、ウクライナ情勢、脱炭素社会など、変化する社会情勢にあって、航空業界がどのような課題を持ち、それに向けて対応しているか、どのような未来に向かうかを考える。
また、航空業界に限らず共通する「接客・おもてなし」についても基本的な考えを学び、普段の生活にも役立つ立ち居振る舞いを身につける。これらを通して、このクラスではKAISEI パーソナリティのI（知性）とIn（国際性）の視座を持つことを目標とする。

授業の概要

エアラインビジネスのオペレーションの概要や歴史、航空政策、空港の機能、経済特性、経営動向やエアラインが置かれている社会環境や課題などについて、身近な例や豊富な写真などを用いて、わかりやすく学習する。
航空業界は世界経済や社会情勢によって日々変化を余儀なくされる。新型コロナウイルスの感染拡大によって航空需要は一時コロナ前の9割にまで落ち込んだ。そして航空需要が復活した現在は、コロナ前とは違った価値観、需要が生まれている。航空事業に限らずどの業界にあっても、地球温暖化、脱炭素は生き残りをかけた戦略となっている。変化する社会情勢にあって、航空業界がどのような課題をもち対応しているのか、知識を得た上で自ら考える姿勢を養う。

授業計画

- 1 講義概要、評価方法、航空機の歴史
- 2 航空自由化への流れ オープンスカイ
- 3 空港の機能
- 4 客室乗務員の仕事
- 5 空港業務と旅客ハンドリング
- 6 JALとANA
- 7 接客の基本

- 8 SDGsとツーリズム
- 9 ネットワークとライアンス
- 10 FFP・ブランド戦略
- 11 LCCの台頭とFSCへの影響
- 12 空の安全
- 13 CIQの機能
- 14 航空貨物ビジネス
- 15 航空業界の脱炭素への取り組みと未来

授業の方法

講義を中心とするが、双方向のコミュニケーションをもち、グループディスカッション、間違えることを恐れず自由に発言できる機会をもつ。

準備学修

関連項目をWEB、関連図書で参照すること。

課題・評価方法、その他

課題提出40%、平常点（ワークショップなどの積極的な姿勢など）20%、定期試験40%

欠席について

大学の規定通りとする。

テキスト

必要に応じて資料を配付する。
基本的には投影資料についてメモをとること。

参考図書

「エアラインビジネス入門 第2版」（2022）稲本恵子 編書
「航空産業入門 第2版」（2017）ANA総合研究所

留意事項

積極的な発言、参画意識を持つこと。
世界の航空産業の動きや日本の観光立国に向けた航空政策、観光業界、航空業界の脱炭素の取り組みなどに関するニュースなどは注目しておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合はオフィスアワーを活用すること。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
宿泊事業論			13835	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	宿泊業実務/企業経営			

授業の到達目標

観光立国を目指した国家戦略は訪日外客誘致を増加させた。その結果、宿泊業界に多大な影響を与えた。宿泊業はホテル、旅館の枠を超え民泊という新たなジャンルに発展している。本講座は旅館、ホテルの歴史や経営・運営に関して学修する。グローバル時代における宿泊産業の基礎を理解し、宿泊マネジメント基礎的知識やグローバル化する宿泊産業の収益構造や組織運営を理解する。このクラスは、KAISEI パーソナリティのIn（国際性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

宿の歴史から始まる本講座は、日本の宿泊と欧米におけるホテル業の歴史を学ぶ。次に、産業としてのホテル業に焦点を当て現代ホテル産業の組織及び運営・経営方式などを理解する。理解を助ける補助教材として日本ホテル協会監修の研修資料を参考に理解を深める。宿泊産業の基礎講座である。

授業計画

- 1 ガイドダンス
- 2 ホテル産業史Ⅰ
- 3 ホテル産業史Ⅱ
- 4 ホテル産業史Ⅲ
- 5 宿泊産業の市場特性
- 6 ホテルの組織と役割
- 7 客室事業・基本業務
- 8 客室事業・組織とサービス
- 9 客室事業・価格戦略
- 10 料飲事業
- 11 バンケット事業
- 12 プライダル事業
- 13 MICE事業
- 14 ホテル再生
- 15 まとめ

授業の方法

テキストとパワーポイントを使い講義をする。受講生はノートを取ること。また、ディスカッション等のグループワークも取り入れる。

準備学修

図書館で購読されている「ホテルレストラン」「月刊ホテル旅館」を読むこと。事前にテキストを一読すること。

課題・評価方法、その他

課題30%、総括試験70%

欠席について

大学の規定通りとする。

テキスト

適宜資料配布

参考図書

適宜紹介
オータパブリケーション『ホテルレストラン』
柴田書店『ホテル旅館』
鈴木博、大庭禎一郎（2007）『基本ホテル経営教本』柴田書店

留意事項

観光における中心的な産業は、宿泊業である。ツーリズムを学ぶ上で必要不可欠である。合わせて、観光マーケティング論を履修すること。事前にテキストを予習すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。